

『部落からの伝統文化の発信』

朗読者 角岡 伸彦

07

私は兵庫県の被差別部落出身のフリーライターということもあつて、同和問題についての著書があります。

最近は講演会やイベントなど、いろんなところに呼ばれることも多い。そんな時に必ず持参するのが、コレ。言うても、ラジオやから見えんかな。

10

サイボシ。知りませんか。馬肉を燻製にした部落の食べ物です。冷蔵庫のなかつた時代の保存食ですが、おいしいので今も関西の部落を中心に食べられています。

15

このほか、部落独特の食べ物に、油カスがあります。肥料の油かすではありませんよ。牛の腸をぶつ切りにして素揚げしています。これを細かく切って、汁ものなどに入れます。ぷよぷよした食感がたまりません。いい出汁も出るんです。最近では、うどんに入れたカスうどんが人気で、部落以外でも食べられています。

20

けれど、これが部落の食文化であることを知っている人は少ない。だから僕が、方々で宣伝してるんです。頼まれもせえへんのに。

サイボシや油カスだけじゃない。被差別部落には、ムラ独特の食文化や芸能が伝えられ、また生まれています。

例えば、日本の祭りに欠かせない和太鼓。この太鼓作りの技術は、被差別部落を中心に長く継承されてきました。

30 ところが、それを演奏する人が部落の中にはいなかったのです。作るだけでなく、自分たちもたたきたい。そんな熱い思いが、太鼓グループの設立につながり、被差別部落以外の人たちも参加して、演奏会や演奏グループが各地に生まれました。

35 今では日本だけでなく、海外でも和太鼓は日本を代表する芸能音楽として人気を集めています。和太鼓作りは世界に通用する被差別部落の文化です。そして、和太鼓の演奏が、部落を超えてみんなをつなぐ文化の懸け橋にもなっているのです。

被差別部落の文化や歴史を、もっと自由に楽しく広めていく活動を、僕はこれからも続けていきたいと思っています。

40 食べているものや、好きな音楽、芸能のルーツを知れば、意外なことが見えてきます。おもしろいですよ。それが今やみんなが共有し、楽しむものになっている。

「へえ、そうやったんかあ」って興味を持ってもらうこと、関心を持ってもらうこと。それが、差別や偏見の壁をなくす一番の方法だと僕は考えています。